

製品名: CD80 マウスモノクローナル抗体**カタログ番号: AMM80734**

研究使用のみ

概要

説明	マウスモノクローナル抗体
宿主	ねずみ
応用	IHC, ICC, ELISA
反応性	人間
標識	非共役
修飾	未修正
アイソタイプ	Mouse IgG1
クローン性	モノクローナル
形態	液体
濃度	1mg/ml
保存	アリコートし、-20°Cで保存してください（12ヶ月有効）。凍結/融解サイクルを避けてください。
輸送	氷袋
バッファー	0.05% アジ化ナトリウムを含む PBS で精製された抗体。
精製	アフィニティー精製

応用

希釈倍率	IHC 1:200-1:1000, ICC 1:200-1:1000, ELISA 1:5000-1:20000
分子量	55kDa

抗原情報

遺伝子名	CD80
別名	CD28LG; LAB7; B7.1
遺伝子 ID	941.0
SwissProt ID	P33681
免疫原	大腸菌で発現した CD80 の精製された組み換え断片。

背景

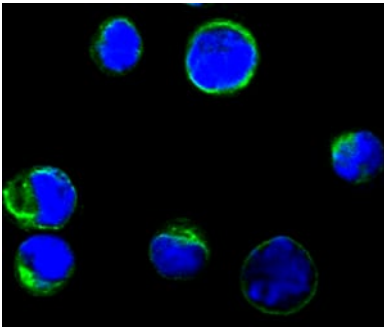
CD80 (Cluster of Differentiation 80) タンパク質は、活性化 B 細胞および単球に存在する分子であり、T 細胞の活性化および生存に必要な共刺激シグナルを提供します。B7.1 としても知られています。その主な作用機序は CD28 への結合です。CD86 とともに、こ

これらの分子は抗原提示細胞によって提示された抗原に対して T 細胞をプライミングするために必要な刺激を提供します。CD80 と CD86 はまた、活性化 T 細胞上に発現する細胞表面分子である CTLA-4 にも結合します。CD80 または CD86 と CTLA-4 の相互作用は、T 細胞の応答を低下させます。エモリー大学の科学者によるマウス研究では、エストロゲン関連の骨量減少は、CD80 などのさまざまなタンパク質やその他の機能に關与する最近発見された経路に關連していることが示されました。簡単に言うと、活性酸素は樹状細胞を刺激し、それが他の免疫細胞を活性化して、T 細胞活性化の共役分子である CD80 の産生をアップレギュレーションします。「この経路が活性化されると、T 細胞による TNF 産生が増加し、最終的には骨量減少につながります。」T 細胞は腫瘍壊死因子 (TNF) というタンパク質を産生し、げっ歯類やヒトにおいて破骨細胞の形成を促進します。破骨細胞は骨からミネラルを放出させ、カルシウムが血流に取り込まれ、体の他の機能に利用されます。破骨細胞の分化はオステオプロテゲリンによって阻害され、エストロゲンはオステオプロテゲリンの産生を刺激します。

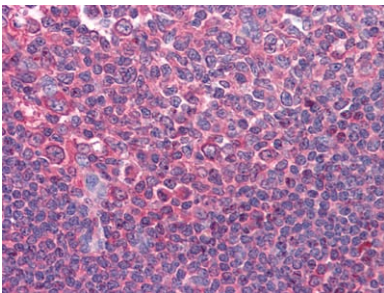
研究分野

TGF- β シグナル伝達経路

画像データ



抗 CD80 モノクローナル抗体 (緑) を用いた BCBL-1 細胞の共焦点免疫蛍光染色。膜局在を示す。青: DRAQ5 蛍光 DNA 色素。



抗 CD80 mAb を用いたパラフィン包埋ヒト扁桃組織の免疫組織化学分析